



▲2002年フェブラリー S (G1)

▼2001年香港 C (G1)

稀代のオールラウンダー アグネスデジタル

芝、ダートを問わずに活躍する馬が“オールラウンダー”と呼ばれるようになったのはいつの頃からだろうか。馬場を問わないうえ、距離も1000mから3200mまでをカバーしたタケシバオーは別格としても、芝とダートのGIを両方制覇したアグネスデジタルも日本競馬の歴史に残るオールラウンダーの1頭である。

1999年、2歳の秋にデビューしたアグネスデジタルはダートを中心に使われ、その年の暮れにGIIの全日本3歳優駿(ダート1600m、現・全日本2歳優駿)で初めて重賞を制覇。その後は芝の重賞にも積極的に出走。上位争いを繰り広げはするものの、勝利をあげるまでには至らず、勝ち鞍は名古屋優駿、ユニコーンS(いずれもGIII)など、ダートの重賞に限られていた。

その実績から「ダートでこそこの馬」と考えられていたアグネスデジタルのイメージを一変させたのは2000年のマイルチャンピオンシップ(GI)だった。評価は13番人気と非常に低く、レースの前半は追走に苦労したもの



の、直線へ向くと怒濤の追い込みを見せて10数頭をこぼす抜き。1分32秒6というコースレコードでGIウイナーの仲間入りを果たしたのだった。

芝とダートを使い分けながらアグネスデジタルはその後、ダートでも2001年のマイルチャンピオンシップ南部杯と2002年のフェブラリーSの両GIを制してこの分野でも頂点を極めるとともに、芝では2001年の天皇賞(秋)と2003年の安田記念を制するという、まさに、オールラウンダーの呼び名にふさわしい実績を積み重ねていった。

そうした現役生活のなか、アグネスデジタルは海外で3つのレースに参戦している。初戦となったのは2001年の香港C(G1、芝2000m)。この日の香港・シャティン競馬場では、香港ヴァーズをステイゴールドが、香港マイルをエイシンブレストンが制覇して“日本旋風”が吹き荒れたが、その殿として香港Cに登場したのがアグネスデジタル。レースでは直線で一気に先頭へと躍り出ると、猛追する外国勢を抑えて優勝し、香港における歴史的な“ジャパン・デー”を締め括った。それは、馬場の壁どころか国の違いさえも乗り越え、オールラウンダーの先輩格にあたるタケシバオーでも果たせなかった海外重賞制覇という偉業を成し遂げた瞬間でもあった。

その後、2002年の海外遠征では、ドバイ・ワールドC(UAE、G1、ダート2000m)こそ6着に大敗したが、クイーンエリザベス2世C(香港、G1、芝2000m)ではエイシンブレストンに次ぐ2着に食い込み、改めてその力を見せつけた。

全成績							中央21戦7勝		地方8戦4勝		海外3戦1勝	
年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手						
1999. 9. 12	阪神	新馬	ダ1400	2	1:26.6	福永 祐一						
10. 2	阪神	新馬	ダ1200	1	1:13.0	福永 祐一						
10. 9	京都	もみじS	1200	8	1:09.7	福永 祐一						
11. 7	京都	もちの木賞500万下	ダ1400	2	1:25.1	福永 祐一						
11. 27	東京	500万下	ダ1600	1	1:38.2	的場 均						
12. 23	川崎	全日本3歳優駿(GII)	ダ1600	1	1:41.1	的場 均						
2000. 2. 20	東京	ヒヤシンスS	ダ1600	3	1:37.8	的場 均						
3. 12	中山	タ刊フジ賞クリスタルC(GIII)	1200	3	1:10.3	的場 均						
4. 8	中山	ニュージーランドT4歳S(GII)	1600	3	1:34.5	的場 均						
5. 7	東京	NHKマイルカップ(GI)	1600	7	1:34.3	的場 均						
6. 14	名古屋	名古屋優駿(GIII)	ダ1900	1	R1:59.8	的場 均						
7. 12	大井	ジャパンダートダービー(GI)	ダ2000	14	2:09.3	的場 均						
9. 30	中山	ユニコーンS(GIII)	ダ1800	1	1:50.7	的場 均						
10. 28	東京	武蔵野S(GIII)	ダ1600	2	1:35.6	的場 均						
11. 19	京都	マイルチャンピオンシップ(GI)	1600	1	R1:32.6	的場 均						
2001. 1. 5	京都	スポーツニッポン賞京都金杯(GIII)	1600	3	1:33.8	的場 均						
5. 13	東京	京王杯スプリングC(GII)	1400	9	1:20.7	四位 洋文						
6. 3	東京	安田記念(GI)	1600	11	1:34.1	四位 洋文						
9. 19	船橋	日本テレビ盃(GIII)	ダ1800	1	1:51.2	四位 洋文						
10. 8	盛岡	マイルチャンピオンシップ南部杯(GI)	ダ1600	1	1:37.7	四位 洋文						
10. 28	東京	天皇賞(秋)(GI)	2000	1	2:02.0	四位 洋文						
12. 16	香港	香港C(GI)	2000	1	2:02.8	四位 洋文						
2002. 2. 17	東京	フェブラリーS(GI)	ダ1600	1	1:35.1	四位 洋文						
3. 23	ドバイ	ドバイ・ワールドC(GI)	ダ2000	6	——	四位 洋文						
4. 21	香港	クイーンエリザベス2世C(GI)	2000	2	2:02.6	四位 洋文						
2003. 5. 1	名古屋	かきつばた記念(GIII)	ダ1400	4	1:25.9	四位 洋文						
6. 8	東京	安田記念(GI)	1600	1	R1:32.1	四位 洋文						
6. 29	阪神	宝塚記念(GI)	2200	13	2:13.7	四位 洋文						
9. 15	船橋	日本テレビ盃(GII)	ダ1800	2	1:52.2	四位 洋文						
10. 13	盛岡	マイルチャンピオンシップ南部杯(GI)	ダ1600	5	1:37.0	四位 洋文						
11. 2	東京	天皇賞(秋)(GI)	2000	17	2:00.4	四位 洋文						
12. 28	中山	有馬記念(GI)	2500	9	2:32.8	四位 洋文						

※レース名は当時の表記による

アグネスデジタル 牡 栗毛 1997年5月15日生			調教師：白井寿昭 馬主：渡辺孝男氏	
父 Crafty Prospector 1979 栗	Mr.Prospector	Raise a Native		
		Gold Digger		
	Real Crafty Lady	In Reality		
母 Chancey Squaw 1991 鹿	Chief's Crown	Princess Roycraft		
		Danzig		
	Allicance	Six Crowns		
		Alleged		
		Runaway Bride		